

**教** 教育相談（カウンセリングを含む）

OZAWA Takafumi

小澤 貴史

Educational Consultation (including Counseling)

科目ナンバリング：UTL-2-311-07

**■授業の目的及び到達目標**

個々の生徒の発達状況に則して必要な支援が行えるように教育相談（カウンセリングを含む）の基礎的知識や技法を身につけることや、具体的な進め方、校内組織・外部専門機関との連携の必要性を理解することを授業の目的とする。到達目標は、教育相談の基礎的知識と技法及び学内外の連携の重要性を理解していることである。

**■授業計画**

- 1 教師が行う教育相談及び学校におけるカウンセリング
  1. 教育相談とは 2. 学校におけるカウンセリングとは 3. 教師が行う教育相談（カウンセリングを含む）の特徴 4. 教育相談の具体的な進め方
- 2 子ども理解と教育相談～発達段階や発達理論を中心に～
  1. 発達とは何か（発達課題の具体例） 2. 児童期の特徴 3. 青年期の特徴 4. 個性・個人差の問題
- 3 保護者支援と教育相談～教師と保護者のコミュニケーション～
  1. 保護者との関わりを考える 2. 保護者面接の方法、クレーム対応のあり方
- 4 教育相談及び学校におけるカウンセリングの組織と連携
  1. 主な連携の形態 2. 教師とスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携 3. 教育相談・生徒指導における連携
- 5 教育相談におけるアセスメント～子どもの状態を把握する～
  1. 教育相談におけるアセスメント 2. 心理的問題の状況把握 3. 学校で起きる諸問題（障害がある子どもの支援を含む）の把握と対応
- 6 子ども同士の理解を深める
  1. エンカウンターとは 2. 構成的グループエンカウンターの実施方法（エクササイズ、シェアリングなど）
- 7 ソーシャルスキルを育む
  1. ソーシャルスキル教育とは 2. ソーシャルスキル教育の実施方法 3. 継続的なソーシャルスキル教育の推進
- 8 ライフスキルを育む
  1. ライフスキル教育とは 2. ライフスキル教育としての健康教育 3. セルフエスティームを育成するライフスキル教育 4. ライフスキル教育と発達障害
- 9 進路を見通す
  1. キャリア教育とは 2. キャリア教育の方法とポイント 3. 進路選択でハンディーンを負いやすい子どもへの情報提供・支援のあり方
- 10 集団不応と不登校
  1. 集団不応の理解と支援 2. 不登校の初期段階でのかかわり方 3. 不登校が本格化した段階でのかかわり方 4. 学校組織による不登校減少への試み
- 11 いじめの問題への対応
  1. いじめとは 2. いじめ被害を訴えてきた子どもへの支援 3. いじめ加害者への支援 4. いじめ被害者の保護者への支援 5. いじめ加害者の保護者への支援
- 12 問題行動への対応
  1. 問題行動とは（「非行」との違い） 2. 問題行動に走る子どもの特徴 3. 問題行動はなぜ発生するのか 4. 問題行動に走る子どもにどのようにかかわるか
- 13 危機管理・児童虐待とPTSD
  1. 危機と危機介入 2. 児童虐待とは 3. 児童虐待の防止に向けて 4. PTSDとは何か
- 14 発達障害への対応
  1. ASDの理解と具体的対応 2. LDの理解と具体的対応 3. ADHDの理解と具体的対応 4. それぞれの状況に応じた具体的な対応と支援
- 15 授業のまとめと試験  
これまでの授業の概要を整理し、学期試験を実施。試験後にフィードバックとしての解説を行う。

**■授業の方法**

講義を基本とするが学校現場の具体的な事例を取り上げてディスカッション形式の授業も行う。理論的・実践的指導力の開発を目指し、学校教育の場で起きる様々な問題行動への予防・治療的対応やカウンセリングマインドを身につける。

**■予習・復習**

予習は、教科書の当該授業の単元に予め目を通し、基本用語等整理してから受講すること。復習は、各回で学んだ内容を再度教科書で確認し、ノート等を見直しておくこと。

**■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）**

学期試験（50%）、レポート提出や授業中の課題への取り組み等（50%）の割合で評価する。学期試験・レポート提出後、フィードバックとしての解説を行う。

**■教科書・参考書**

教科書：小林正幸他編、『教師のための学校カウンセリング』有斐閣、および『生徒指導提要』2010、文部科学省  
参考書：適宜紹介する。

**■関連する科目**

教職課程の科目。「心理学A」「心理学B」を修得していることが望まれる。

**■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）**

本学学生部において、学生主事として30年間にわたり学生相談を担当（内、8年間は学生支援室長）。現在は、学内の「心理相談日」担当、学外では拓殖大学第一高等学校スクールカウンセラー等を務めている。